

オープンデータシンポジウム開催報告

2014.2.20

オープンデータ流通推進コンソーシアム 事務局



1. シンポジウム概要

オープンデータシンポジウム 世界最先端オープンデータ社会の実現に向けて 世界の潮流から学ぶべきこと

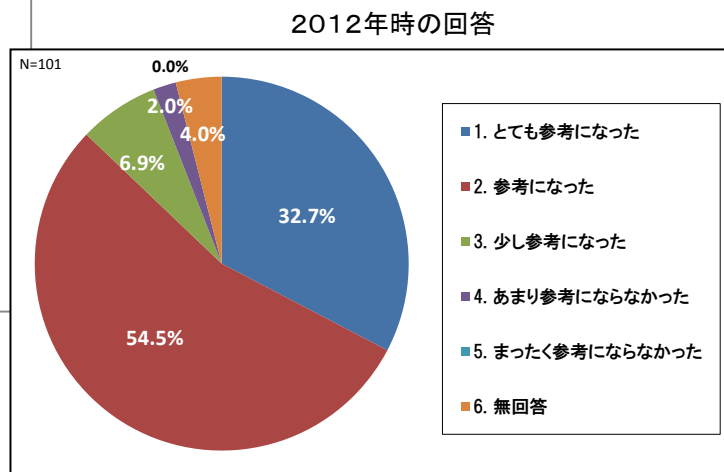
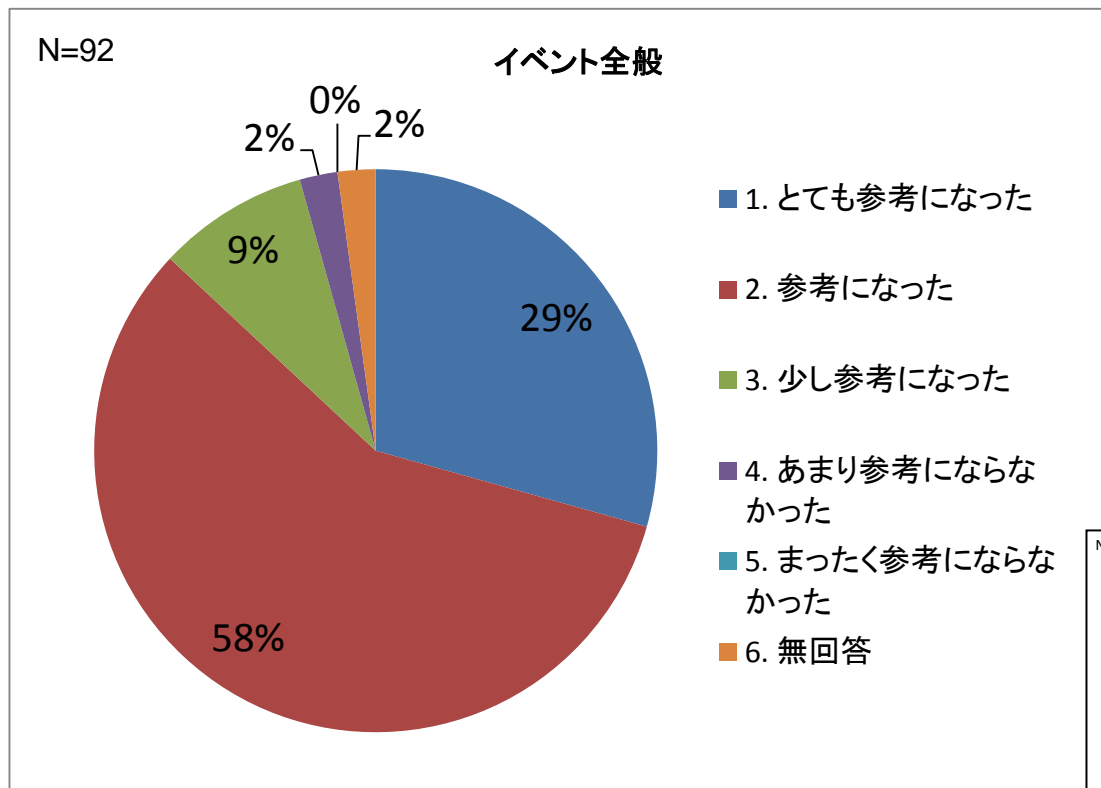
開催日時	2013年12月9日(月) 13:30~17:00
会場	東京大学 伊藤謝恩ホール
主催者 及び後援	主催 オープンデータ流通推進コンソーシアム、総務省
	後援 経済産業省、国土交通省、日本経済団体連合会、 ASP・SaaS・クラウド コンソーシアム、国立国会図書館
プログラム	<ol style="list-style-type: none">1. 主催者挨拶2. 主催者挨拶及びミニ講演3. 各府省の取組紹介4. 基調講演(ODIメンバーシップ・プログラム・マネジャー Richard Stirling 氏)5. 基調講演(漫画家 佐藤秀峰 氏)6. オープンデータ流通推進コンソーシアム各委員会の活動報告7. 鼎談(Richard Stirling 氏、国際大学GLOCOM 庄司昌彦 氏、国際大学GLOCOM 渡辺智暁 氏)
参加者数	221名(参考:第1回261名)

2. アンケート概要

対象者	シンポジウム来場者
調査方法	シンポジウム来場者に対し、受付時にアンケートを配布し、退出時に出入り口にてアンケートを回収した。
質問項目	<p>(1) イベントに対する評価</p> <ul style="list-style-type: none">① 本日のイベント全般を振り返って、どのくらい役に立ったか(SA) <p>(2) 講演内容</p> <ul style="list-style-type: none">① 特に参考になった内容(FA)② より詳しく知りたかった情報(FA)③ オープンデータの将来的な可能性(FA)④ オープンデータの利用・普及に向けた課題(FA)⑤ 今後取り上げて欲しいテーマ(FA) <p>(3) 来場者の属性</p> <ul style="list-style-type: none">① 業種(SA)② オープンデータとの関わり(MA)③ オープンデータの利用意向(MA)④ 来場の目的(MA)

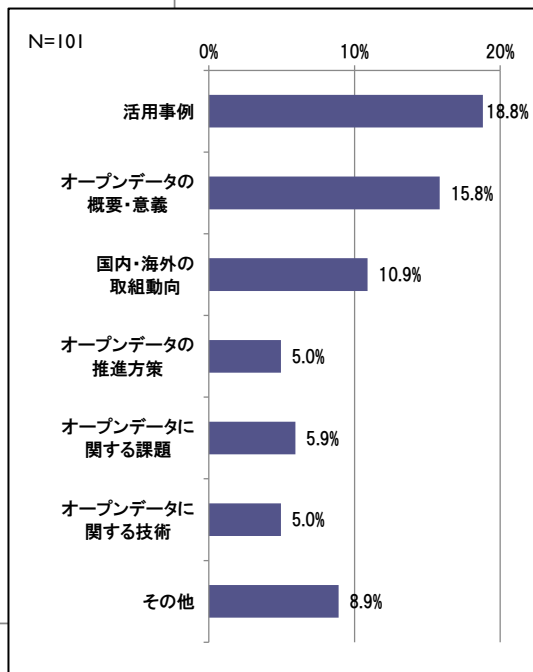
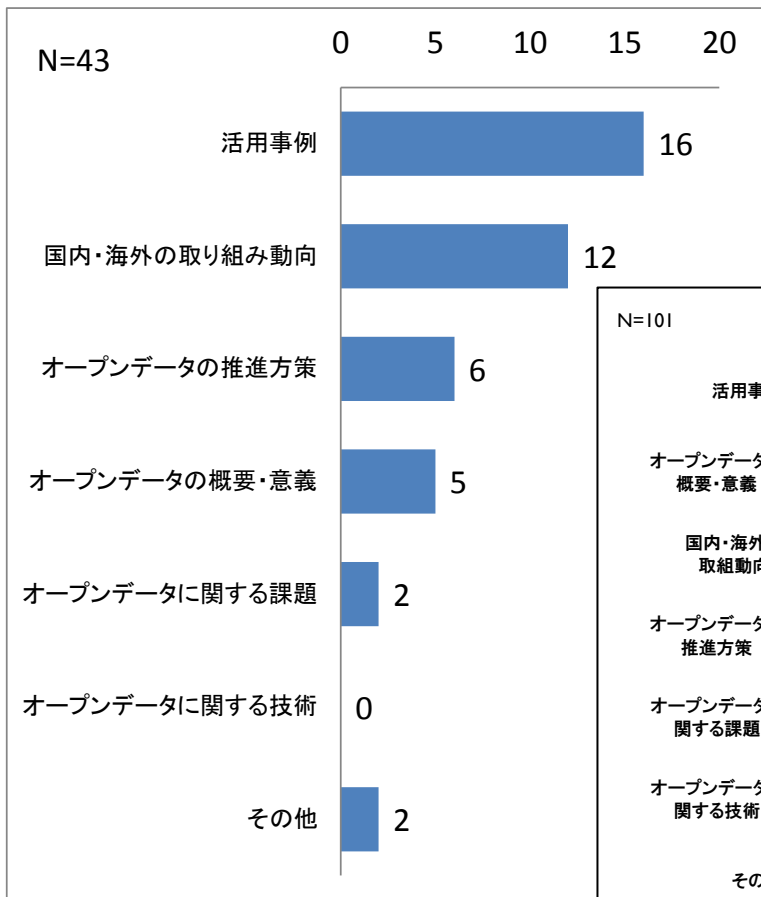
3. アンケート結果 ①イベントに対する評価

■ イベント全般を振り返って、どの程度役に立ったかとの問いに対し、「とても参考になった。」「参考になった」と回答した人が約9割のぼった。全体として昨年とほぼ同じ傾向を示している。



3. アンケート結果 ②特に参考になった内容

■特に参考になった内容として、活用事例を挙げる人が最も多く、英国の事例や漫画の二次利用自由化という事例への反響が多い。次いで国内・海外の取り組み動向が挙げられた。昨年に比べ、国内外への取り組み動向への反響が増えている。

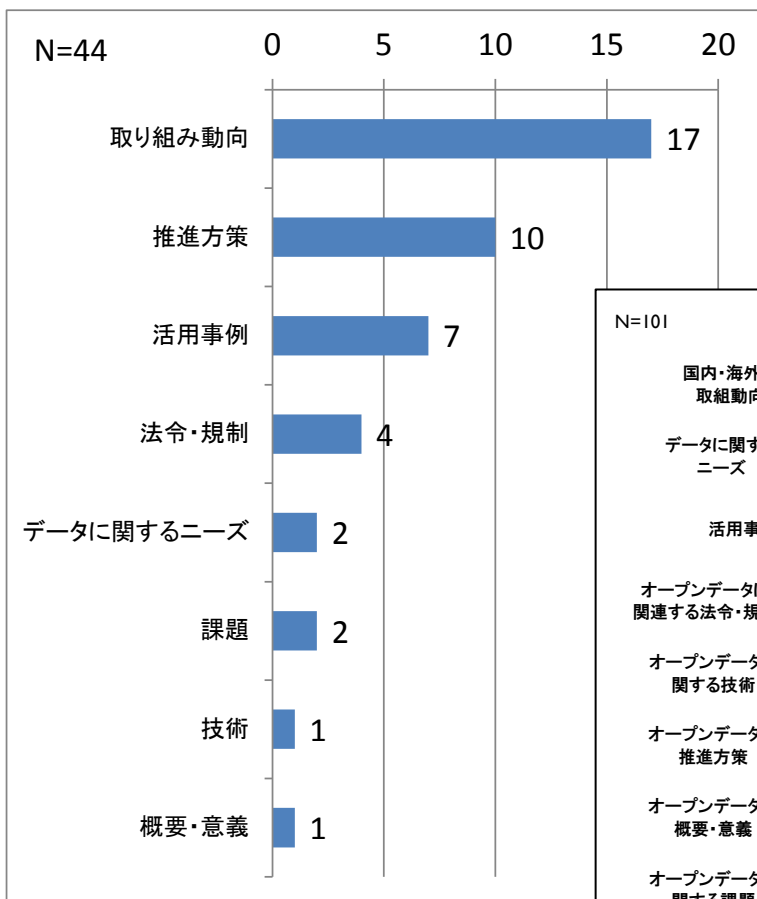


主なコメント

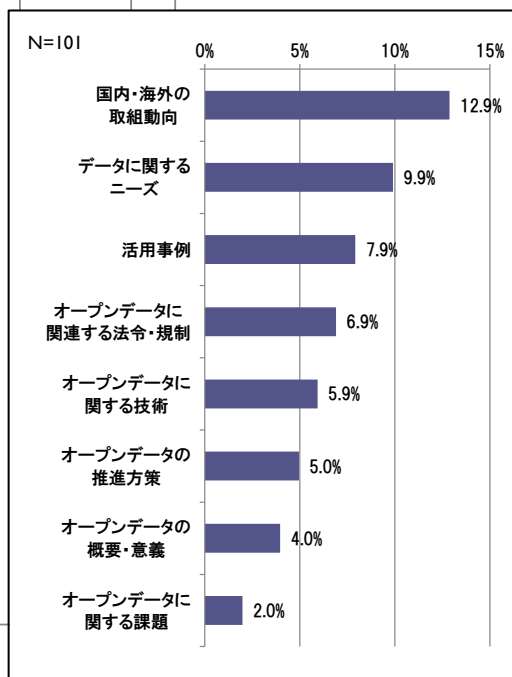
活用事例	<ul style="list-style-type: none"> 英国のオープンデータの事例や考え方など 著作権二次利用フリーによる経済効果は大変興味深かった 久山町の調査について市民の声に驚きました
取組動向	<ul style="list-style-type: none"> 世界での動きを知ることができた、ライセンスの検討・CC-BY データカタログサイトの試行に関する情報をずっと待ちました さばえ市や横浜市が国と連携してオープンデータ化への取組を具体化してきていること
推進方策	<ul style="list-style-type: none"> 政府内での検討状況や議論点が明らかになったこと

3. アンケート結果 ③より詳しく知りたかった情報

■より詳しく知りたかったこととして、取り組み動向を挙げる人が最も多く、次いで推進方策や活用事例が挙げられた。昨年に比べ、個別のデータへの関心よりも、国等の取り組みや推進策についての関心が高くなっている。



2012年時の回答

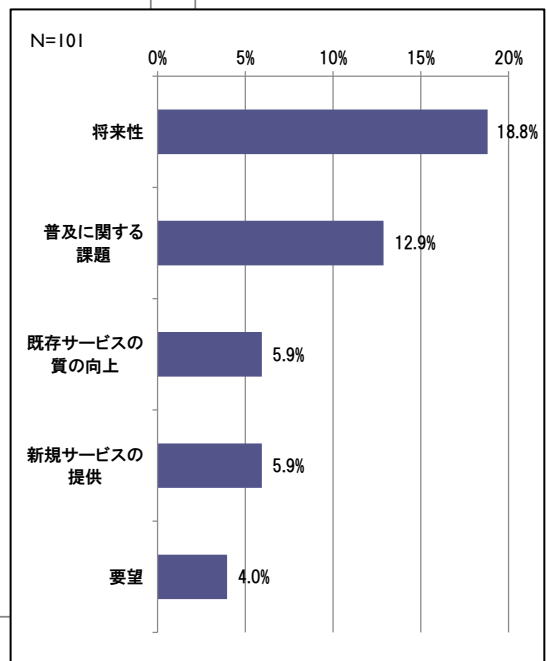
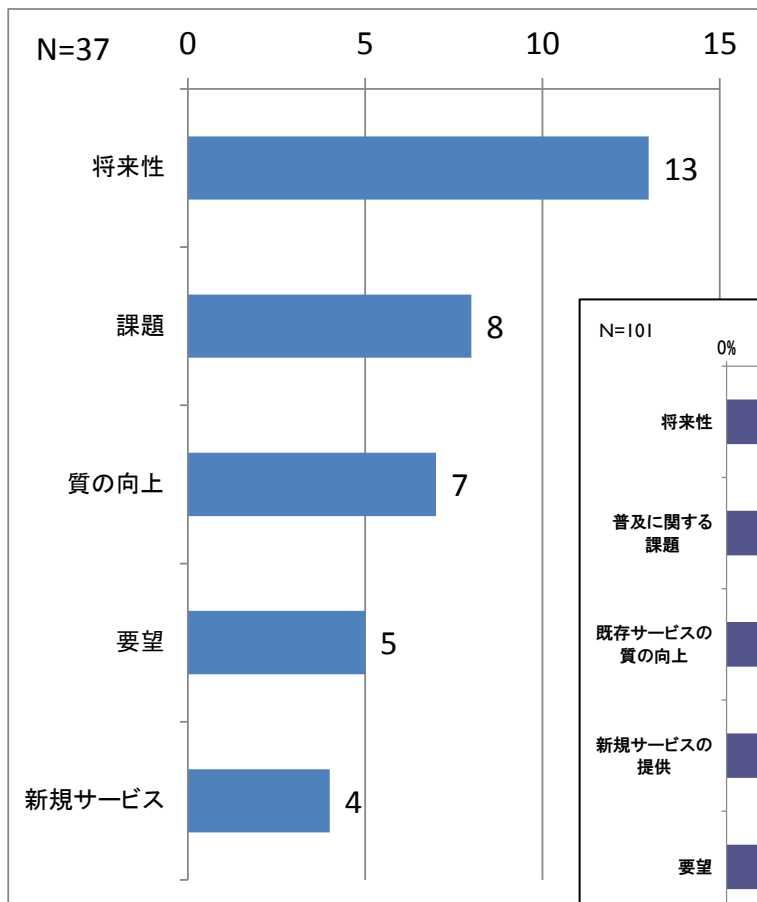


主なコメント

取組動向	<ul style="list-style-type: none"> 英国以外の特に東・東南アジアでの取り組みの方向などがあれば知りたい。 オープンデータを取り巻く国内の複数団体の相関図、各団体の棲み分け、競合分野 各府省の取り組みをもっと時間をかけて説明して欲しかった
推進方策	<ul style="list-style-type: none"> アイデアソン以外にオープンデータ活用の方法を見出す方法はあるのか オープンデータを持続させるための施策 自治体の取り組みを加速するための方策
活用事例	<ul style="list-style-type: none"> 小さな成功体験(具体的なケース)をもう少し紹介しても良かったのでは

3. アンケート結果 ④オープンデータの将来的な可能性

■オープンデータの将来的な可能性については、イノベーションや社会課題の解決可能性等の意見が挙げられた。一方で課題も指摘されるなど、全体的には昨年と同様の傾向となっている。

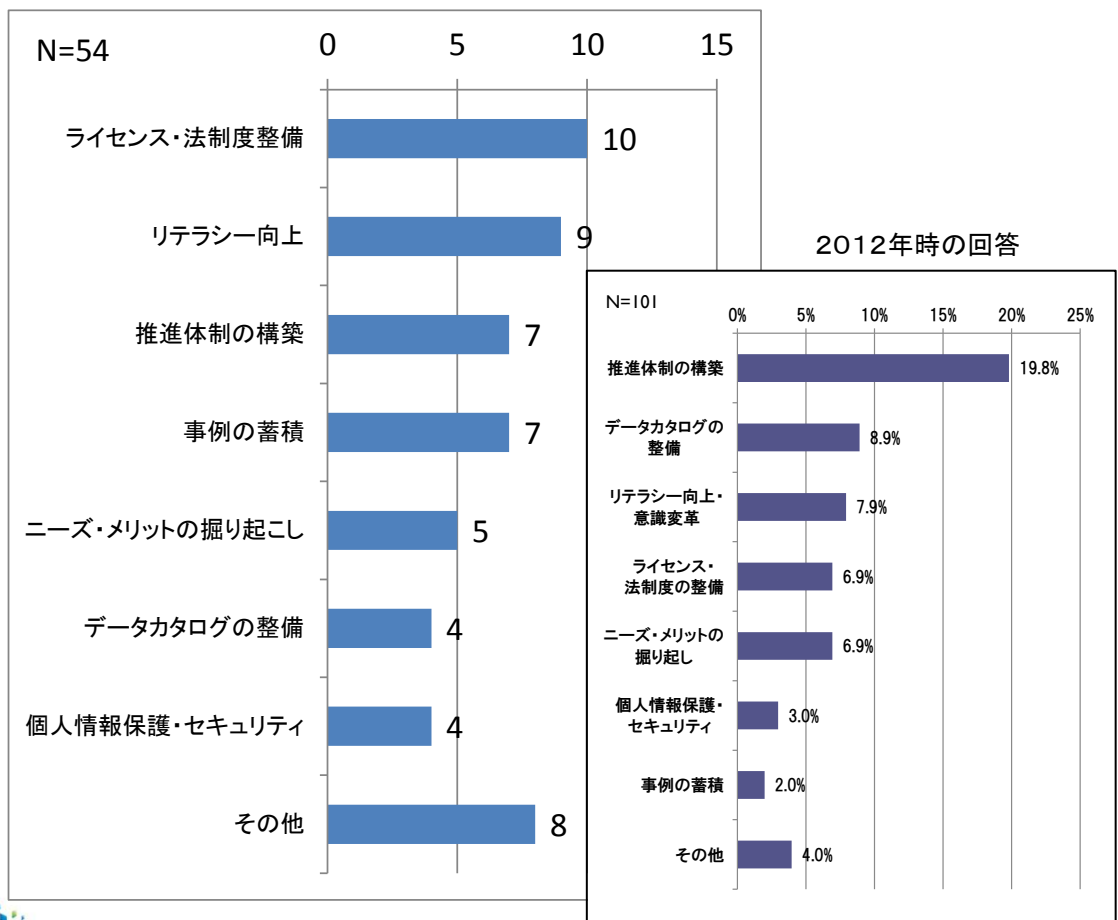


主なコメント

将来性	<ul style="list-style-type: none"> • 思いもよらないところでの展開が期待できる • 課題解決に向けてデータの有効な活用で大きなイノベーションが起きるのではないかと • 人口減、財政収入低下の中でも、いかに自治体の行政サービスを維持、拡大できるか可能性について強く感じた
課題	<ul style="list-style-type: none"> • 経済活性化につながる事例を先につくらなければオープン化は進まないのでは？ • データの誤表示についての対応など、課題も多い状況
質の向上	<ul style="list-style-type: none"> • 市民の行政参加、民主主義の進化に役立つ • 経済効果だけでなく「楽しい」など新しいデータの使われ方の可能性にふれられて良かった

3. アンケート結果 ⑤利用・普及に向けた課題

- 利用・普及に向けた課題については、昨年と異なった傾向となっており、ライセンスや法整備、リテラシー等、より具体的な課題に関心が移っている。
- 一方、データカタログの公開開始を受け、データカタログへの課題指摘は減少している。



主なコメント

ライセンス・法整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共データの著作権の取り扱い、その前提として、公共データをどう定義するか ・ 政府の著作権を活用できていない、価値ある情報ならば二次利用時の利益何%とか納めさせても良い ・ 犯罪や違法なことに利用されてしまった時の責任や対処など
リテラシー向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ ほとんどの自治体職員はオープンデータすら知らない ・ データの読み方、使い方、科学的思考、比較など、利用する側(国民)のリテラシー
推進体制構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受け身状態にある自治体にフォーカスした議論 ・ 企業と公的機関の連携、協力体制

3. アンケート結果 ⑥今後取り上げて欲しいテーマ

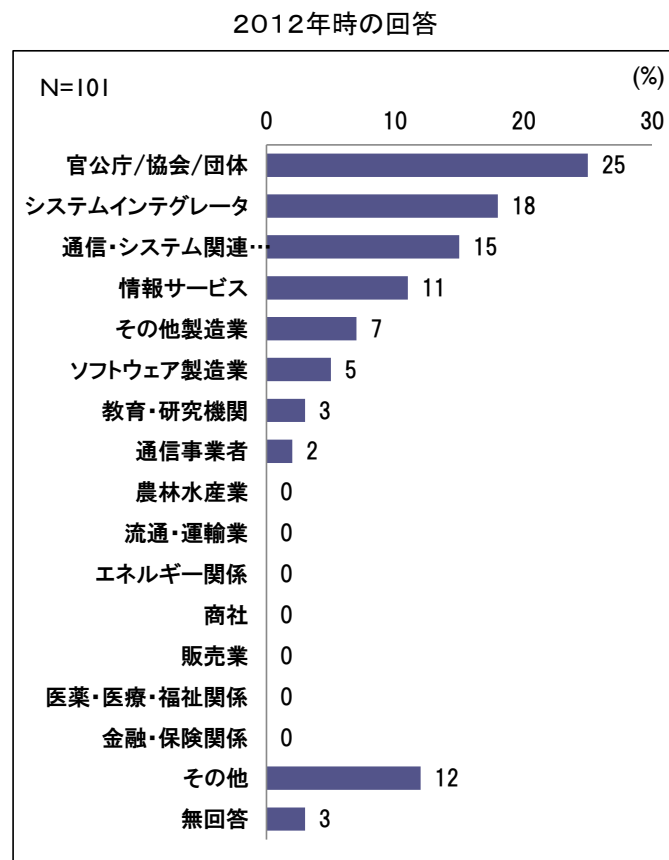
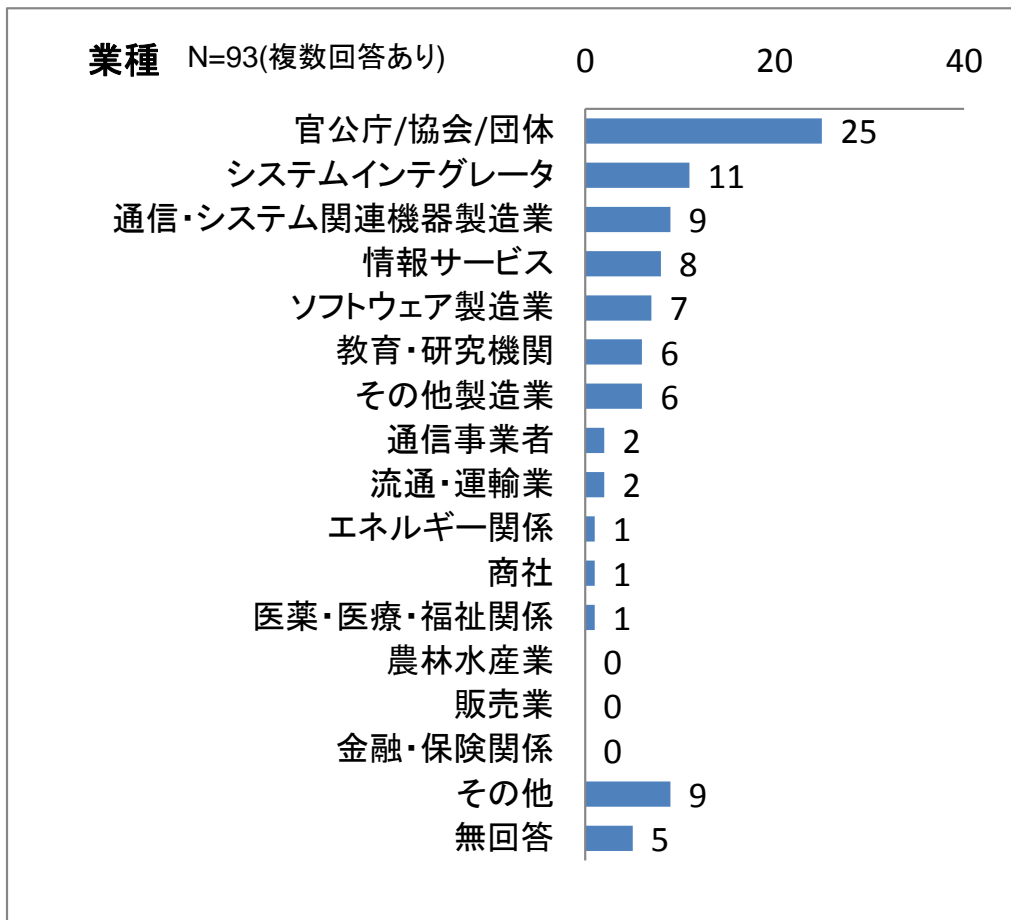
■今後取り上げて欲しいテーマについては、下記のような意見が寄せられた。

主なコメント

オープンデータ 推進方策	<ul style="list-style-type: none">・ アイデアソン・ハッカソン等のワークショップイベントや対話の場のつくり方・ オープンガバメントポリシー、政府の中の共通意識について・ オープンデータ公開するだけでなくそれによって起きうる新たな情報の流れの検証など・ オープンデータを進めている自治体の話をきいてみたい・ オープンデータと公共政策の関係、オープンデータと地域の振興、オープンデータの産業利用
データ公開状況	<ul style="list-style-type: none">・ ライフログ関連の統計など・ 環境問題データ(災害、多様性保全など)や学術データ(研究データのオープン化の現状)・ 統計APIを活用した例の公開、統計ポータルサイトの仕様公開(DBMS、概要統計)
成功事例の紹介	<ul style="list-style-type: none">・ オープンデータの自治体事例や官民連携事例・ オープンデータを活用した新ビジネス事例・ 具体的な利用シーン・ 産業の実例・ 成功例(サービスモデル、ビジネスモデル)と失敗例・ パーソナルデータの活用・ 国内の実証事例(あれば民間)、オープンデータ後発国の事例や欧州以外の国の例
個別のテーマ	<ul style="list-style-type: none">・ オープンデータに係る技術的動向(巨大データの公開、共通フォーマットの作定)・ オープンデータのアナリティクス技術、事例・ 地方議会のオープンデータ利活用について・ データの取り扱いのルールについて(社会的なコンセンサスはどのように形成されていくか)

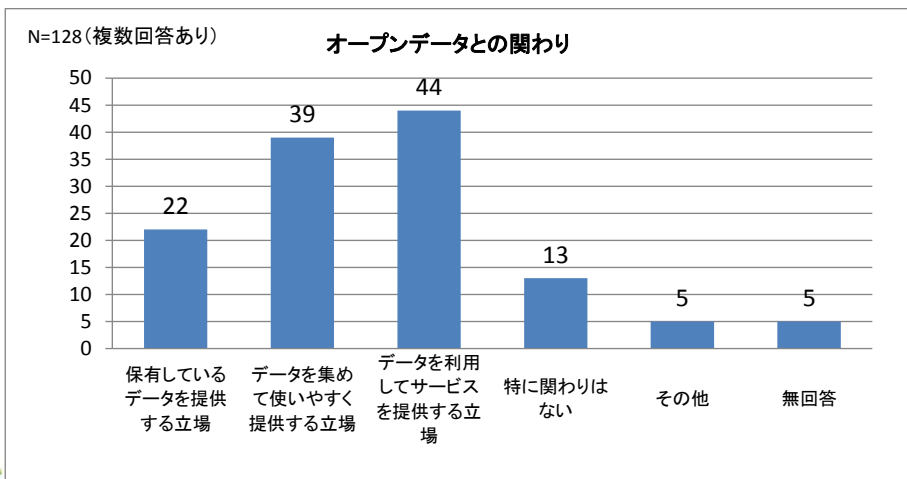
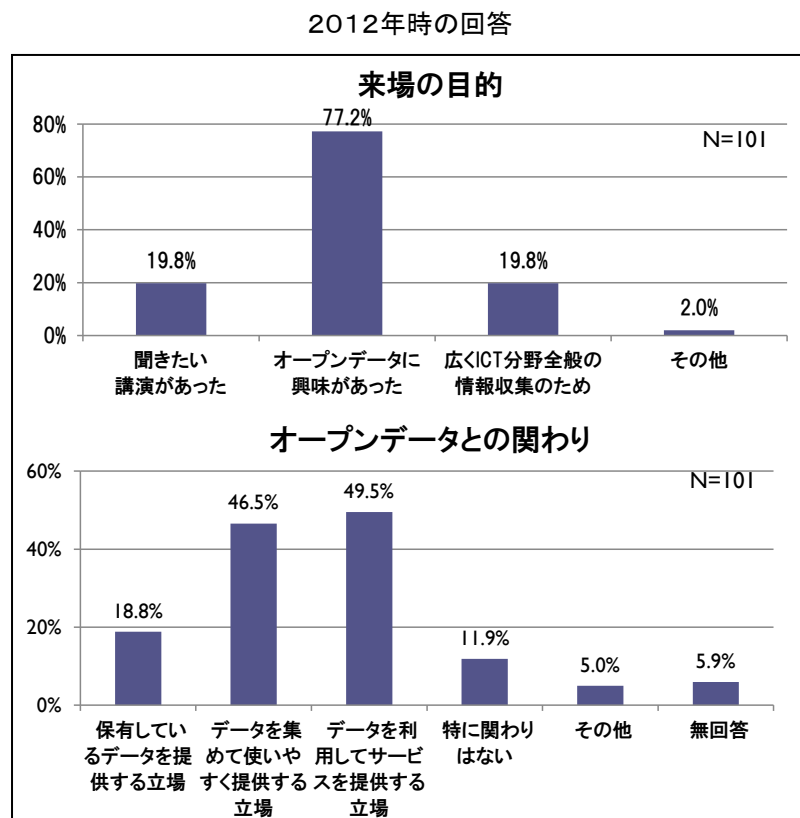
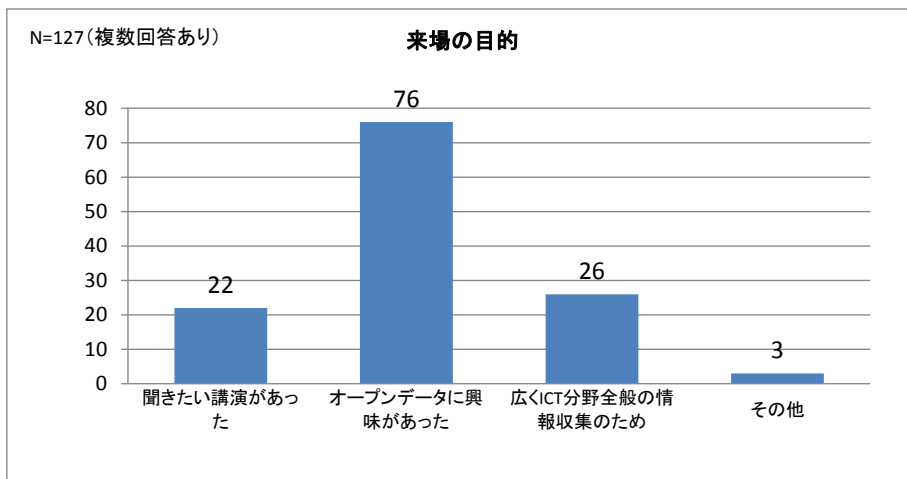
3. アンケート結果 ⑦来場者の属性

■来場者の属性は、上位4位までは昨年と同様で、官公庁やシステムインテグレータ、通信システム関連、情報サービスとなっている。その他も全体的な傾向は昨年とほぼ同様である。



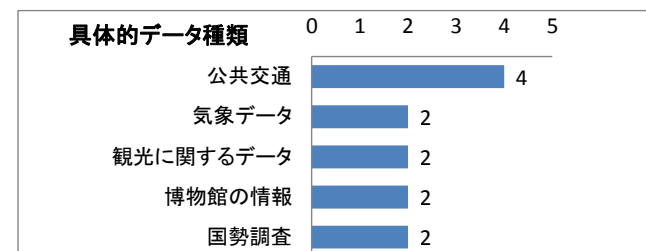
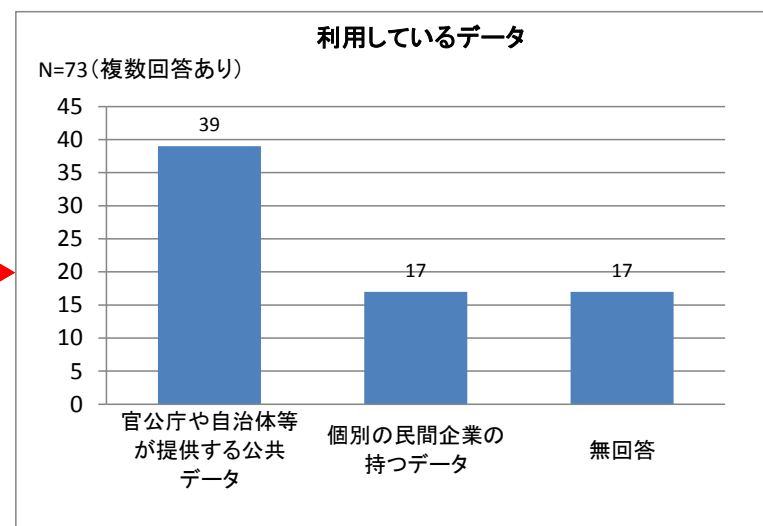
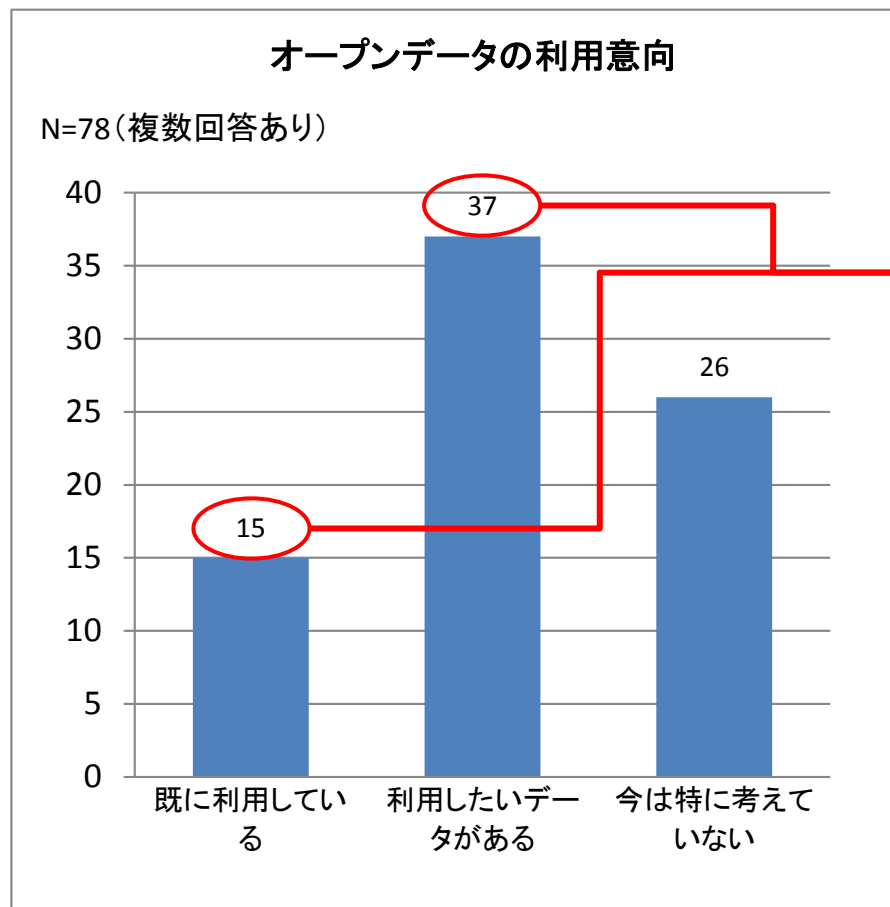
3. アンケート結果 ⑦来場者の属性

- 来場の目的は「オープンデータに興味があった」が最も多く、約8割を占めた。
- 来場者のオープンデータとの関わりは、「データを利用してサービスを提供する立場」「データを集めて使いやすく提供する」が約半数程度ずつであった。



3. アンケート結果 ⑦来場者の属性

- オープンデータの利用意向として、約半数の参加者が「すでに利用している」または「利用したいデータがある」と回答した。
- 利用している/利用したいデータとしては、半数以上が「公共データ」を挙げた。



その他、大学の学会のデータ、携帯会社の持つ位置データ、人口のデータ、地図空間情報、郵便番号データ、車検用住所データ、道路工事情報、経済統計データ、入札情報、地域住民の所得データ、ヘルスケア分野、医療データ、生物多様性保全に関わる情報など

3. アンケート結果 ⑦来場者の属性

■昨年と比較すると利用意向はほぼ同じ傾向を示しているが、利用したいデータに関しては、民間データへの期待も高まってきている。

2012年時の回答

